

1-27 肉用牛農家から受け入れた牛ふんを原料とした牛ふん堆肥
(農事組合法人益田市堆肥センター)

○ 農事組合法人益田市堆肥センターは、近隣の肉用牛農家から牛ふんを受け入れて堆肥化し、品質の安定した堆肥を製造。

国内資源の種類

肥料の種類・肥料名称

- ・牛ふん
 - ・副資材（のこ屑、バーク、もみ殻、かなな屑等）
- ・種類：特殊肥料（牛ふん堆肥）
 - ・肥料名：エコパワーますだ一番（18kg,10kg）
（有機JAS規格別表等資材）

作物

主成分の含有量（%）、特徴等

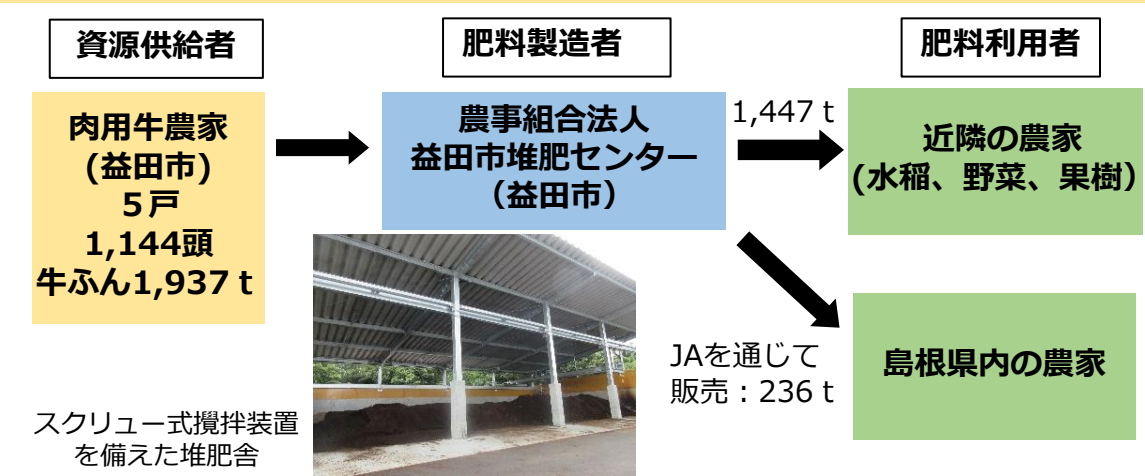
- ・水稻
- ・野菜（ケール等）
- ・果樹（ぶどう等）

N	P	K	C/N比
1.14	1.51	2.15	17.9

取組の経緯・内容・成果（見込み）

- 取組の経緯
- ・地域の畜産農家の規模拡大や新規就農者の希望により、家畜排せつ物の受け入れニーズが高まったことや、耕種農家からの化学肥料の代替として高品質な堆肥供給のニーズが高まったことを受け、令和4年度にスクリー式攪拌機能を付加した堆肥舎を新設した。
- 取組の内容
- ・近隣の肉用牛農家で発生した牛ふんと副資材を混合し水分調整した原料を、スクリー式攪拌装置とブロアーを活用し2か月かけて堆肥化処理を行う（一次製品）。また、一次製品を、更に切り返しやスクープ式攪拌装置により約半年かけて追加発酵を行う（二次製品）。
 - ・一次製品はバラで近隣の野菜、果樹及び水稻の農家に販売している。二次製品は袋詰めし、主にJAを通じて県内の組合員へ販売している。
- 成果（見込み）
- ・畜産農家からの希望数量を受け入れることが可能となり、規模拡大や新規就農につながった。また、以前より高温で発酵処理することが可能となり、水分量が低く品質の安定した堆肥の生産が可能となった。

主たる取組主体と肥料利用までの流れ



今後の課題・取組

- ・耕種農家のニーズの把握やサンプル提供を行っており、販路拡大を進めていく。

